１　授業の実際

本単元で大切にしたい見方は、単位・基準の考えである。「一つ分」「まとまり」といった言葉を子どもから引き出したいと考えていた。かけ算の学習では、かけ算の意味に基づいて式に表したり、同数累加の考えから計算の仕方について考えたりする。かけ算の意味とは、一言で表すと「一つ分×いくつ分＝全体の数」である。ものの数を数える際に、一つ分の数に着目して任意のまとまりを作っていく過程がかけ算の意味を理解していくためには欠かすことができない。つまり、基準量を意識することによって、かけ算の意味を追究した。また、本単元では、ものの数を数える場面だけでなく、量の大きさを比べる場面も扱うことによって、かけ算の汎用性にも目を向けさせたいと考えた。

本実践は、第二次２時間目に行った。図１のように３人のだんごの数を隠して提示し、だれのだんごが一番多いか考えた。だんごの入った箱の中身を一箱ずつ見せたことによって、比例を仮定しながら一箱分の数に着目していった。板書にも見られるように、子どもたちは、一箱分の数、つまり基準量に目を向け、かけ算の式に表した。

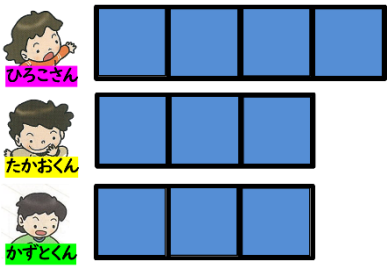


図１　問題提示

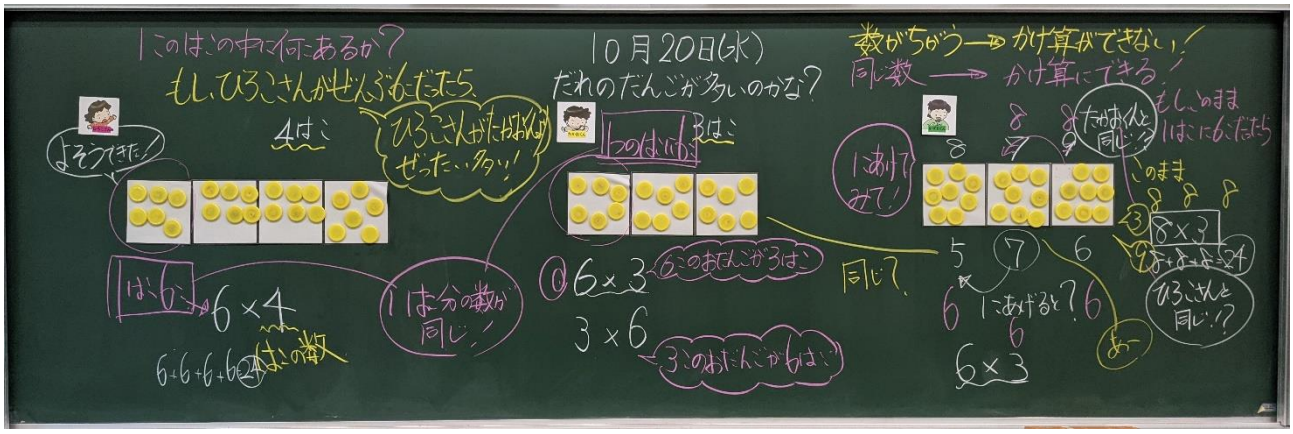
提示した場面について簡潔に示す。

●たかおくんとひろこさんは、一箱分の数（基準量）が６個で揃っているが、箱の数（いくつ分）がひろこさんの方が一箱多い。

●たかおくんとかずとくんは、箱の数（いくつ分）が３箱で揃っている。

●かずとくんの箱の中身は、８個、７個、９個と一箱分の数（基準量）が揃っていない。

たかおくんとひろこさんのだんごの数を比べる際に、一箱分の数が揃っているので、箱の数が多いひろこさんの方が多いといった比べ方をしていた。また、かずとくんのだんごの数を考える際には、一箱分の数が揃っていないので同じ数ずつになるよう揃えていった。ここで見られた見方は「基準量を揃える」という見方である。この見方は、比べる場面では、特に、有用性を感じて使いこなしてほしいと考えている。これから先の「単位量当たり」や「割合」等の数量関係の比較の場面では、「基準量を揃える」見方が重要になることは言うまでもない。



２　今後に向けて

各教科等で整理した見方・考え方を系統的に育てる意識を授業者がもつことはもちろん、子どもが自覚的に見方・考え方を働かせることができるように単元のつながりを明示的に授業の中でも扱う必要がある。大人には見える単元のつながりを子どもが見えるようになるための指導の工夫について考えていきたい。